

「より混戦のシーズンに！ 3.5時間の激走Ⅱ」



GT 耐久東海シリーズ第4戦は、愛知県蒲郡市のスパ西浦モーターパークにて行われ、25 台のチームが集まった。

前回第3戦に続き、今回の第4戦はサマースペシャルとして、いつもより30分ほど長い3.5Hとなっており、ポイント獲得のチャンス。彼岸も過ぎた9月終盤とはいえ暑さの残るサーキットではより”アツい戦い”が期待された。

サーキットに管制機材関係のトラブルが発生し、途中経過がアナウンスできない状況になりました。集計により最終結果を確認いたしました。レポートも予選結果と決勝のみをご案内させていただきます、ご了承のほどお願い申し上げます。



直接対決を制しランクトップに #88

「1 + 2 C」クラス(1500cc および特認 1600cc 以下の NA 車と、1200cc 以下の過給機付き車のクローズドクラス)

第3戦で CVT(ホンダマルチマチック)を見事優勝に導いた#88「菱木レーシング シビック」は別の仕様の MT 車を持ち込んだ。一方#77「トータルセブン」チームが CVT 車と MT 車を持ち込むという展開。

シビック以外では#108「IDIマルヨシスターレット」や常連の#27の「ルブロス PROFIT ヴィッツ」などが迎え撃ち全部で8台がエントリー。

■予選

予選は#88「菱木レーシング DXL シビック」1' 04.353、で貫録のトップタイム。2 番手は#70「トータルセブン GT シビック」1' 05.837、こちらは MT 車、3 番手に#108「IDI マルヨシスターレット」1' 07.391、4 番手#68「CRAZY FORCE VE マーチ」1' 08.798、5 番手に注目の#77「トータルセブン CVT シビック」が 1' 12.019、6 番手#52「MSCJ 奈良ロードスター」1' 15.228、7 番手#27「ルブロス PROFIT ヴィッツ」1' 16.878、8 番手#107「トータルセブンロードスター」1' 17.023

■決勝

ゴール終盤に SC が出る展開のレースだったが、#88「菱木レーシング DXL シビック」が終始安定した速さを見せ 139Lap で見事優勝、チームとしては 2 連勝を飾った。2 位には#70「トータルセブン GT シビック」が 1Lap 差で入り MT シビックがワンツー。そして注目の#77「トータルセブン CVT シビック」は、ドライブブルーペナルティのあった#68「CRAZY FORCE VE マーチ」を振り切り、3 位表彰台。1500 シビックの表彰台独占は 2 レース連続。

4 位は 1Lap 及ばなかった#68「CRAZY FORCE VE マーチ」、5 位は#52「MSCJ 奈良ロードスター」、6 位#27「ルブロス PROFIT ヴィッツ」、7 位#107「トータルセブンロードスター」という結果。#108「IDI マルヨシスターレット」は車両規定違反のため章典外。



開幕連続表彰台継続中 #70



CVT 車のポテンシャルは本物 #77

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■総評

チャンピオンシップは#88「菱木レーシング DXL シビック」が逆転で 1P 差のトップにたった。しかしながら優勝こそないものの#70「トータルセブン GT シビック」も開幕からすべてのレースで表彰台に乗っており、実力は充分。ランク 3 位の#792「カムワークスワンナイヴィッツ」以下はタイトルの可能性はなく、上位 2 チームの一騎打ちとなっている。

しかしながら MT 車 CVT 車を問わず 1500 シビックの速さは強力で、2 レース連続での表彰台独占は GT 耐久はじまって以来の出来事。最終戦から来シーズンにかけて、これを倒すマシンが現れるか改めて注目したい。



表彰台まであと一歩 #68



NA 対決を制し 5 位入賞 #52



リッターカーで奮闘 #27



#108 は章典外



オープンに最高の季節 #107



「3C」クラス（1501cc 以上のNA 車と、1201cc 以上の過給機付き車のクローズドクラス）

GT耐久東海シリーズでいま最もホットなクラスが3C、第3戦は10チーム、この第4戦は11チームが顔をそろえた。車種も実に豊富でインポートカーからVTEC搭載車、ターボ、FR、クーペ、ホットハッチとさまざまなマシンが一堂に会しての面白いバトルが繰り広げられる。



シーズン 2 勝目！ #62

第3戦を終わった段階で、優勝こそないものの開幕から連続表彰台を続け#33「ボディショップ國盛ミラーージュ」がトップをキープ。ランク2位もしぶとい走りが身上の#111「S'tecAE-1 ファジートレノ」、3位には開幕戦で勝利を飾った#62「RTカーライフ名古屋WN CLNシビック」と3車種が三つ巴の争い、それにインポートカーの#318「T-FACTORY 318is」、#106「D&M スパイクオート 106」などが絡む。今回注目は1年ぶり参加の#13「岸本レーシング」が持ち込んだインテグラ、ワンメーク用がベースのようだがスパ西浦とのマッチングはどうか注目だ。

■予選

予選開始早々波乱がおこった。#72「SWEET SIGNAL パルサー」がトラブルからコースアウト、いきなりの赤旗中断となった。遅延となった予選でクラストップを獲得したのは#450「トルネオの大冒険」1'03.624。その横には、第3戦優勝で上り調子の#87「瀬戸自動車 SYC シビック」が1'03.713とコンマ089差でぴったりとロックオン。予選3番手は#13「高田眼科藤井岸本 RS インテグラ」も1'03.999の3秒台をマークし速さを見せる。



シリーズ初表彰台！ #318

以下4番手には#62「WN CLNシビック」1'04.657、5番手は唯一のFRである#318「T-FACTORY 318is」1'05.110、6番手#106「D&M スパイクオート 106」1'05.697、ここはインポートカーが並ぶ。7番手#75「DXL SPM シーワン EP82」1'09.212、8番手#111「S'tecAE-1 ファジートレノ」1'09.418、9番手#33「ボディショップ國盛ミラーージュ」1'10.727とランキング上位チームがこのポジションから上位進出を狙う。予選10番手#91「BRP DXL スターレットターボ」1'16.136、#72「SWEET SIGNAL パルサー」はマシン修復が間に合い、ピットスタート。ちなみに前戦もピットスタートながら初表彰台を獲得しておりその再現を狙うか。



好調をキープ #87

■決勝

真夏の決戦Ⅱ（暦の上ではセプテンバーなのに）を制したのは、予選4番手からスタートした#62「WN CLNシビック」、144Lapを走り開幕戦に続く今季2勝目をGET。2位には#318「T-FACTORY 318is」が同一周回で入りシリーズ初表彰台、3位は#87「瀬戸自動車 SYC シビック」で好調をキープ。



4位は4秒差で表彰台を逃すも#450「トルネオの大冒険」でこちらもポイント獲得、5位は#111「S'tecAE-1 ファジートレノ」、ドライでは少し厳しいか。6位は#33「ボディショップ國盛ミラーージュ」、最速ラップは3秒台を記録するなどランキングトップの実力を見せた。

7位#75「DXL SPM シーワン EP82」、8位#91「BRP DXL スターレットターボ」とスターレット勢が続き、9位が#72「SWEET SIGNAL パルサー」。予選3番手で注目された#13「高田眼科藤井岸本 RS インテグラ」、速さはあるものの少し乗りにくいようで、コースアウトするなどの不運に見舞われ10位でチェッカー、もう一台のインポートカー#106「D&M スパイクオート 106」はマシントラブルで46Lapのところまで戦列を離れた。

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■総評

シリーズ争いは混とん、#33「ボディショップ國盛ミラーージュ」はトップを守ったものの、#62「WN CLNシビック」がわずか 4P 差につけた。5 位は#111「S'tec AE-1 ファジートレノ」はランク 3 位に後退したもののトップからは 12P 差でなんとか逆転のチャンスをうかがい、すぐその後ろには#87「瀬戸自動車 SYC シビック」が 1P 差という混戦模様。

シリーズタイトルには少し届かないかもしれないが、#450「トルネオの大冒険」、#318「T-FACTORY 318is」などの個性派車種の動向も気になる。セダン(クーペ)ボディや FR といった特色のある車種が走り回るのが GT 耐久東海シリーズの特色、最終戦での活躍からも目が離せない。



セダンボディが個性的 #450



こちらはクーペボディ #111



ポイントは依然トップ #33



少々じゃじゃ馬か #13



スターレット対決を制したのは #75



マシントラブルは初とのこと #106



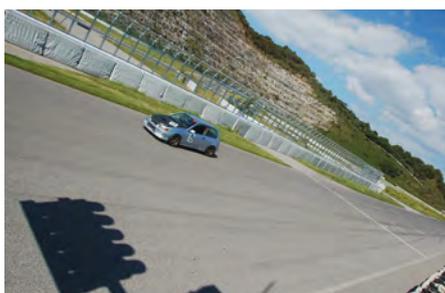
同一車種対決は燃えるぜ！



ハットトリック達成 #6



2位は今季2回目 #19



開幕戦以来の3位 #15



途中トラブルにもめげず完走 #76



初出場で完走 #152

「OP」クラス（排気量区分なしのオープンクラス）

今回は6チームのエントリーとなった排気量区分なしのOPクラス。第2戦終了時点で並んでいた、#6「ソーワエンジニアリング」と#110「アライメント浜松」のうち#6が連勝で一歩リードして向かえた、第4戦、タイトル争いも佳境を迎える。一方これ以上離されたくない、#15「カムレーシングワークス キチキチ キッシースターレット」は勝利が必要とされる。

■予選

予選をとったのは#110「DXLアライメント浜松シティー」で1'00.562で全体のPP、ポイントを稼ぐ絶好のポジションからスタート。#6「ペンズフレミング シビック」は1'02.221で2番手、第3戦ではピットスタートからの逆転優勝という離れ業を見せただけに、予選2番手はある意味余裕か。3番手は#15「キチキチ キッシースターレット」1'03.145、4番手は2戦ぶりの出場#19「YADOKARI シビック」1'03.335、5番手は今シーズン初出場の#76「ヒロエンタープライズ EG」が1'03.926と続きこまではすべて3秒台の予選タイム。

6番手の初出場#152「関西トチキレーシング」の「4G93ミラージュ」は3HBのミラージュの車体にランサーのエンジンを積んだモデルでタイムは1'06.359。

■決勝

PPからスタートして快調に飛ばす#110「DXLアライメント浜松シティー」を悪夢が襲ったのは、ゴールまであと10分を切ったとき、マシントラブルによりヘアピン立ち上がりのポイントでストップ、完走扱いにはなったが最下位という結果に。

シーズン3連勝を飾ったのが、#6「ペンズフレミング シビック」で総合優勝のおまけつき。2位は#19「YADOKARI シビック」、3位は#15「キチキチ キッシースターレット」が第4戦の表彰台。4位は#76「ヒロエンタープライズ EG」、5位#152「4G93ミラージュ」という最終結果。

■総評

#6「ソーワエンジニアリング」はシリーズ争いを有利に進め、最終戦を迎えることとなる。#110「アライメント浜松」は厳しくなった。最終戦での逆転はあるか。

